

平成31年5月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年10月15日

上場会社名 株式会社 ヴィレッジヴァンガードコーポレーション

上場取引所 東

コード番号 2769 URL <https://www.village-v.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 白川 篤典

問合せ先責任者 (役職名) 管理本部長 (氏名) 滝島 知樹

TEL 052-769-1150

四半期報告書提出予定日 平成30年10月15日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年5月期第1四半期の連結業績(平成30年6月1日～平成30年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年5月期第1四半期	8,323	2.6	199	6.2	215	9.9	178	51.4
30年5月期第1四半期	8,546	0.3	212	85.8	196	318.3	366	

(注) 包括利益 31年5月期第1四半期 168百万円 (57.0%) 30年5月期第1四半期 390百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年5月期第1四半期	18.95	18.88
30年5月期第1四半期	47.56	47.10

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年5月期第1四半期	26,519	8,685	32.7
30年5月期	26,283	8,689	32.9

(参考) 自己資本 31年5月期第1四半期 8,663百万円 30年5月期 8,657百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年5月期		0.00		14.00	14.00
31年5月期					
31年5月期(予想)		0.00		14.00	14.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

上記「配当の状況」は、普通株式に係る配当の状況です。当社が発行する普通株式と権利関係の異なる種類株式(非上場)の配当については、後述の「種類株式の配当の状況」をご覧ください。

3. 平成31年5月期の連結業績予想(平成30年6月1日～平成31年5月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	16,221	1.3	190		257		361		54.37
通期	35,261	3.1	389	4.7	314	7.4	32	85.8	11.29

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P.10「2.四半期連結財務諸表及び主な注記(4)四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

31年5月期1Q	7,805,500 株	30年5月期	7,805,500 株
----------	-------------	--------	-------------

期末自己株式数

31年5月期1Q	1 株	30年5月期	1 株
----------	-----	--------	-----

期中平均株式数(四半期累計)

31年5月期1Q	7,805,499 株	30年5月期1Q	7,700,499 株
----------	-------------	----------	-------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○種類株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なる種類株式に係る1株当たり配当金の内訳は以下のとおりです。

A種優先株式	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年5月期	—	—	—	35,287.67	35,287.67
31年5月期	—				
31年5月期 (予想)		—	—	80,000.00	80,000.00

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

当第1四半期連結累計期間（平成30年6月1日～平成30年8月31日）におけるわが国経済は、引続き政府による経済政策は継続されるものの、日本経済とつながりのある大国間の貿易摩擦を初めとした、海外諸国における不安定な情勢から、世界経済への影響はもとより、日本経済への影響もより一層注視されております。

小売業界におきましては、消費の下支えとなる訪日観光客は、2020年開催の東京オリンピックを見据え増加基調ではありますが、消費に至っては商品購入に代り、観光地訪問などのサービス消費へ向かう傾向がより強く表れてきております。国内の個人消費につきましては雇用環境や所得環境の改善が引続きみられるものの、景況感停滞、生活必需品の値上げ等に基因する節約志向・選別消費の傾向は今後も継続していく状況であります。

このような状況の下、当社グループは、お客様の期待を越えた選ばれる店舗をめざし、店舗ごとに独創的な空間を創出することにより、「新しい発見」や「買い物の楽しさ」をお客様に提供する事業活動を行ってまいりました。店舗運営における新規出店店舗については当社の魅力を再認識してもらえる店づくり、既存店舗については、店舗集客を目的とした情報発信として店舗外でのイベント開催、商品陳列方法の変更等を引続き実施してまいりました。店舗運営におけるサポート体制といたしましては、お客様に喜ばれる商品の発掘や、商品供給体制の強化を行ってまいりました。また、あらたな収益源の確保に向けた外販活動、既存店商品のWEB販売にも継続的に取り組んでまいりました。

店舗数につきましては、直営店1店を新規出店し、直営店4店、FC店1店を閉鎖したことにより、当社グループの当第1四半期連結累計期間末の店舗数は、直営店347店、FC店7店の合計354店となりました。

このような事業活動の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高につきましては、平成29年8月1日付けで行なったフード事業の会社分割による店舗数の減少の影響により、8,323百万円と前年同四半期と比べ223百万円の減収（2.6%減）となりました。売上総利益につきましては、仕入のコントロール、アウトレット店舗での在庫の消化を継続的に取り組んでまいりましたが、3,145百万円と前年同四半期と比べ216百万円減益（6.4%減）となりました。営業利益は199百万円と前年同四半期と比べ13百万円減益（6.2%減）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、178百万円とフード事業の会社分割による移転利益を計上した前年同四半期と比べ188百万円の減益（51.4%減）となりました。

セグメント別の業績は以下のとおりであります。

①株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション

株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーションは、お客様に買い物を楽しんでいただくため、独創的なワン・アンド・オンリーの空間の創造を目指しております。

各店舗では、書籍・SPICE(雑貨類)及びニューメディア（CD・DVD類）、食品、アパレル等の商材を融合させ、店舗独自の「提案」を展開しております。

主な業態店舗としては、「遊べる本屋」をコンセプトにした「ヴィレッジヴァンガード」、大人も楽しめる空間を演出したライフスタイルショップ「new style」、アウトレット業態「Vintage Vanguard」等を運営しております。

当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は8,142百万円と前年同四半期と比べ207百万円の減収（2.5%減）となりました。売上総利益につきましては、仕入のコントロール、アウトレット店舗での在庫の消化に継続的に取り組んだものの、売上総利益は3,064百万円と前年同四半期と比べ220百万円減益（6.7%減）となりました。販売費及び一般管理費の削減に継続的に取り組んでおりますが、営業利益は197百万円と前年同四半期と比べ43百万円の減益（18.0%減）となりました。

店舗数につきましては直営店1店を新規出店し、直営店4店、FC店1店を閉鎖しました。また、当第1四半期連結累計期間末の店舗数は、直営店347店、FC店7店の合計354店となりました。

②その他

株式会社Village Vanguard Webbedは日本国内でオンラインでの書籍・SPICE及びニューメディアの販売を行っております。取扱商品といたしましては、社外のクリエイターが作成した商品、アーティストとのコラボ商品などを多く取り扱い、画一的でなく、面白味のある商品を多数取り扱っております。

また、当社グループには海外事業といたしまして、海外子会社が3社ありますが、比利緹卡(上海)商贸有限公司につきましては、平成28年3月末をもって店舗を閉鎖、Village Vanguard (Hong Kong) Limitedにつきましても平成28年6月末をもって店舗を閉鎖、TITICACA HONGKONG LIMITEDにつきましても平成29年6月末をもって店舗を閉鎖いたしております。今後、順次、会社清算へ向けた手続を進めていく予定であります。

子会社（株式会社Village Vanguard Webbed及び海外子会社3社）の当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は207百万円と前年同四半期と比べ8百万円の減収（4.2%減）となりました。営業損失は0百万円（前年同四半期は28百万円の営業損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて1.2%増加し、22,790百万円となりました。これは、現金及び預金が259百万円増加したことなどによるものです。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて1.1%減少し、3,729百万円となりました。これは、建物及び構築物が42百万円、工具、器具及び備品が8百万円減少したことなどによるものです。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて0.9%増加し、26,519百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて4.6%増加し、9,643百万円となりました。これは、短期借入金が500百万円増加したことなどによるものです。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて2.2%減少し、8,190百万円となりました。これは、長期借入金が268百万円減少したことなどによるものです。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて1.4%増加し、17,833百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて3百万円減少し、8,685百万円となりました。これは、新株予約権が9百万円減少したことなどによるものです。

②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べて259百万円増加し、当第1四半期連結累計期間末には5,019百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は230百万円（前年同四半期は539百万円の収入）となりました。

これは、売上債権の増加額238百万円があったものの、たな卸資産の減少額185百万円および仕入債務の増加額226百万円があったためであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は54百万円（前年同四半期は578百万円の収入）となりました。

これは、主に有形固定資産の取得による支出9百万円、無形固定資産の取得による支出33百万円、差入保証金の差入による支出6百万円があったためであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は83百万円（前年同四半期は1,103百万円の支出）となりました。これは、主に長期借入金の返済による支出が981百万円あったものの、短期借入金の増加500百万円および長期借入れによる収入650百万円があったためであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年7月13日の「平成31年5月期 決算短信」で公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,759	5,019
売掛金	1,293	1,537
商品	16,141	15,956
その他	323	280
貸倒引当金	△3	△3
流動資産合計	22,515	22,790
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,477	1,435
機械装置及び運搬具（純額）	0	0
工具、器具及び備品（純額）	176	168
建設仮勘定	94	95
有形固定資産合計	1,749	1,699
無形固定資産		
ソフトウェア	191	189
ソフトウェア仮勘定	209	228
その他	1	1
無形固定資産合計	402	419
投資その他の資産		
長期前払費用	86	77
差入保証金	1,528	1,531
その他	1	1
投資その他の資産合計	1,617	1,610
固定資産合計	3,768	3,729
資産合計	26,283	26,519

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成30年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年8月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,055	4,283
短期借入金	—	500
1年内償還予定の社債	—	30
1年内返済予定の長期借入金	3,515	3,453
未払金	601	434
未払法人税等	287	94
未払消費税等	52	155
株主優待引当金	32	24
賞与引当金	52	27
資産除去債務	41	26
その他	580	613
流動負債合計	9,220	9,643
固定負債		
社債	—	120
長期借入金	6,302	6,033
長期未払金	229	196
役員退職慰労引当金	340	343
退職給付に係る負債	252	247
資産除去債務	1,175	1,186
その他	75	62
固定負債合計	8,374	8,190
負債合計	17,594	17,833
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,301	2,301
資本剰余金	3,778	3,778
利益剰余金	2,559	2,575
自己株式	△0	△0
株主資本合計	8,638	8,654
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	18	8
その他の包括利益累計額合計	18	8
新株予約権	31	22
純資産合計	8,689	8,685
負債純資産合計	26,283	26,519

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年6月1日 至平成29年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年6月1日 至平成30年8月31日)
売上高	8,546	8,323
売上原価	5,185	5,178
売上総利益	3,361	3,145
販売費及び一般管理費	3,148	2,945
営業利益	212	199
営業外収益		
仕入割引	0	10
業務受託料	19	34
その他	8	13
営業外収益合計	28	57
営業外費用		
営業外支払手数料	2	1
支払利息	32	37
その他	10	2
営業外費用合計	45	41
経常利益	196	215
特別利益		
新株予約権戻入益	4	0
事業分離における移転利益	276	—
特別利益合計	281	0
特別損失		
固定資産除却損	8	1
減損損失	4	7
特別損失合計	12	9
税金等調整前四半期純利益	464	207
法人税等	98	29
四半期純利益	366	178
親会社株主に帰属する四半期純利益	366	178

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年6月1日 至平成29年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年6月1日 至平成30年8月31日)
四半期純利益	366	178
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	0	△9
退職給付に係る調整額	24	—
その他の包括利益合計	24	△9
四半期包括利益	390	168
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	390	168

（3）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前第1四半期連結累計期間 （自平成29年6月1日 至平成29年8月31日）	当第1四半期連結累計期間 （自平成30年6月1日 至平成30年8月31日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	464	207
減価償却費	101	71
事業分離における移転利益	△276	—
減損損失	4	7
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	2	△5
支払手数料	2	1
売上債権の増減額（△は増加）	△276	△238
たな卸資産の増減額（△は増加）	△520	185
仕入債務の増減額（△は減少）	1,127	226
その他	12	△30
小計	641	427
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	△33	△38
法人税等の支払額又は還付額（△は支払）	△68	△158
営業活動によるキャッシュ・フロー	539	230
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△30	△9
無形固定資産の取得による支出	△33	△33
差入保証金の差入による支出	△42	△6
差入保証金の回収による収入	45	0
事業分離による収入	647	—
その他	△8	△6
投資活動によるキャッシュ・フロー	578	△54
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	90	500
長期借入れによる収入	152	650
社債の発行による収入	—	147
長期借入金の返済による支出	△1,150	△981
割賦債務の返済による支出	△85	△60
配当金の支払額	△107	△162
その他	△2	△10
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,103	83
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	1
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	14	259
現金及び現金同等物の期首残高	2,728	4,759
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,742	5,019

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

（税金費用の計算）

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、税引前四半期純損益に一時差異等に該当しない重要な差異を加減した上で、法定実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自平成29年6月1日至平成29年8月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 3	合計	調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 2
	(株)ヴィレッジヴァ ンガードコーポレ ーション				
売上高					
外部顧客への売上高	8,341	205	8,546	—	8,546
セグメント間の内部売上 高又は振替高	9	10	19	△19	—
計	8,350	216	8,566	△19	8,546
セグメント利益又は損失 (△)	241	△28	212	0	212

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額0百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 「その他」の区分は、Village Vanguard (Hong Kong) Limited、株式会社Village Vanguard Webbed、比利
緹卡（上海）商贸有限公司、TITICACA HONGKONG LIMITEDが含まれております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自平成30年6月1日至平成30年8月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント	その他 (注) 3	合計	調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 2
	(株)ヴィレッジヴァ ンガードコーポレ ーション				
売上高					
外部顧客への売上高	8,126	196	8,323	—	8,323
セグメント間の内部売上 高又は振替高	15	10	26	△26	—
計	8,142	207	8,349	△26	8,323
セグメント利益又は損失 (△)	197	△0	197	1	199

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額1百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 「その他」の区分は、Village Vanguard (Hong Kong) Limited、株式会社Village Vanguard Webbed、比利緹卡（上海）商贸有限公司、TITICACA HONGKONG LIMITEDが含まれております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。